

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270600313		
法人名	社会福祉法人 清和園		
事業所名	セイワ美浜グループホーム		
所在地	千葉県千葉市美浜区磯辺2-21-2		
自己評価作成日	令和3年3月4日	評価結果市町村受理日	令和3年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和3年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者が出来る限りご自分のペースで生活できるよう、余暇の過ごし方、起床・就寝、入浴の時間等ご本人の意向を出来る限り尊重している。医療連携加算をとり、併設の特養の看護職員により入居者の日々の健康管理や相談・助言をもらえる体制が出来ている。セイワ美浜複合型施設の特徴として、入居者に状態の変化があった際、併設の特養入所への調整がスムーズに行え、環境の変化に弱い入居者の負担を出来る限り少なくしている。また、精神科医師の往診にて認知症や精神状態の相談もを行っている。施設内の内部研修については、其々の委員会から配信動画を用いた動画視聴研修を今年度は実施。少人数での内部研修開催とした。全職員へ動画視聴研修を行い、密を避けた研修方法を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「住まう人の笑顔と満足のために、笑顔で親切・丁寧・謙虚」の理念のもと、利用者に寄り添った支援に努めている。利用者の思いをくみ取り、本が好きな利用者や本屋や図書館に出かけたり、音楽が好きな利用者には好きな音楽を流すことで笑顔が増えた。利用者ができることを把握し、役割があるという喜びにつなげるようにしている。身体拘束をしないケアにも取り組んでおり、職員全員に不適切ケアに関するアンケートを実施している。アンケートの結果は集計、分析しフィードバックし、問題点が改善されるまで繰り返し改善を呼びかけ確認しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	セイワ美浜グループホームとして独自の理念を作り、勤務室内やホームの入口等常に見える場所に理念を掲示している。勤務の申し送り時に理念について確認し、常に理念を意識し、業務に取り組むよう努めている。	「笑顔で親切・丁寧・謙虚な支援」の理念のもと、利用者の笑顔と満足を大切に支援に努めている。理念は申し送り時にも確認している。意思表示が難しい利用者が音楽が好きだということを見出し、好きな歌を流すことで笑顔を引き出すなど、日々の支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は行えていないが、以前は毎日、近隣のお店に入居者とともに買い物に出掛け、店員さんと顔馴染みの関係を楽しんでいた。地域の小学校とも交流を持ち、小学校での発表会に招待されたり、事業所内にボランティアに来てくれる等、定期的に交流していた。	町内会に加入しており、地域の清掃活動や防災訓練にも参加している。散歩や買い物時には地域住民と挨拶を交わしたり、見学や問い合わせには丁寧に対応している。また、地域に向け認知症についての講演をおこなうなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の他事業所職員とともに地域の方に向けての認知症の方への支援について、講演を実施したこともあるが定期的には行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議の開催が出来ていない。	運営推進会議には自治会長、地域包括支援センター、利用者家族などが参加している。家族から併設している特別養護老人ホームについて質問を受けたことから、施設について知ってもらえるように、施設との交流会を始めた。	コロナ禍により、運営推進会議が開催できないが、書面による意見交換など、何らかの形でホームの状況を伝えるとともに、意見がもらえる仕組みの構築も期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行っている。	市とは日ごろから連絡を取り、協力関係を築くようにしている。運営推進会議には地域包括支援センターの参加もあり、情報を共有できる体制がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会からの身体拘束廃止に向けた内部研修を行っている。センサーを導入し、入居者の動きに気付けるようにして出来るだけ行動を制限しないよう努め、安全な外出に繋げている。	不適切なケアについてのアンケートを実施し、職員全員に答えてもらっている。アンケート結果は分析して職員に伝え、その後再度アンケートを実施し、改善されているかを確認している。利用者が外に出たい様子があれば職員が付き添うなど、できるだけ利用者の行動を制限しない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会からの虐待防止に向けた内部研修を行っている。不適切な声掛けが無いが、各介助の場面別に職員一人一人振り返り、予防に繋げている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や契約時には、家族と十分に話し合い、入居者の不安を出来る限り軽減できるよう、また安心した生活が送れるよう説明を行い、理解・納得をしてもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは電話や面会時に意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。	家族の面会時や電話などでの連絡時には、意見を傾聴するように心がけている。畑仕事が好きだったという家族からの情報で、ウッドデッキに家庭菜園を作り、苗植え、水やり、収穫、調理などを利用者と一緒にこなしている事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の開催や、適宜話し合い・相談の時間を設けて運営に反映させている。	ユニット会議などで職員の意見を聞いており、出席できない場合は事前に意見をもらっている。職員の意見から、利用者が平等に散歩や外出ができるよう、「外出表」を作成した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は法人内の委員会や施設内の委員会等での交流から、サービスの質の向上へ繋げている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の問い合わせや見学時、事前の面接時等に、現在の状況をできる限り本人から気持ちを聞くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接時等に、現在の状況の把握を行い、どのような問題を抱えているのか、またどのような支援を希望しているのかを確認している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を確認した上で、本人のニーズにあった併設のサービスを紹介する等行なうようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、生活の中で役割を担ってもらい、共に助け合う意識で関わっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の面会時や電話にてコミュニケーションを図り、入居者の日常の様子を伝えながら家族とケアの方法等検討、協力を依頼している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人への郵便物を届けたり、面会時は一緒に過ごせるよう配慮している。	入居前の聞き取り、家族や利用者との日々の関わりの中で把握するようにしている。把握した情報は連絡ノートなどにも記載し、職員間で共有している。本が好きだった利用者には、定期的に本屋や図書館に外出する機会を設けたこともある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間のトラブルがないよう配慮し、より良い関係が築けるよう努めている。また食事の準備など日常の家事で入居者同士が関わり、助け合えるような声掛けをしている。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の事業所へ異動した入居者本人や家族と交流する機会を持つことができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見・表情・訴えなどから、意識して把握できるよう努め、家族からの情報も収集し把握に努めている。	利用者の言葉などから気持ちを読み取るようにしている。意思疎通が難しい場合は表情や、生活歴などから把握するようにしている。情報は連絡ノート等に記載し共有している。配膳を手伝いたいという利用者に、毎回役割を持ってもらうなど意向を尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、生活歴や馴染みの暮らし方を職員が共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムシートへの記入や個別記録を関わった職員全員で残し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの開催や、家族から情報を集め、介護計画の作成につなげられるよう努めている。	利用者、家族の意向などを基に介護計画を作成しており、毎月のカンファレンスで評価見直しをおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活の様子の記録やケアカンファレンス、職員間の連絡ノートを活用し、情報の共有に努め、介護計画の見直しに活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日等に入居者の要望を聞き、個別に誕生会の計画・実施をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域の店に、入居者が希望する物を職員や家族が代わりに買い物に行き、購入している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状態に合わせ必要な医療を家族と相談しながら受けている。	利用者は訪問診療を定期的を受診しており、希望に応じて精神科の訪問診療を受けることができる。定期診療以外でも相談、受診が可能であり、看護職員とは24時間相談ができる体制が整っている。以前からのかかりつけ医の受診を希望する場合は、家族とも連携しながら対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化や緊急時など看護職員へ報告し、処置や病院受診の必要性を判断してもらっている。医療連携体制加算をとっているため併設の特養の看護職員に相談・指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適宜主治医との面談を行い、状態の確認や退院の見通しについて確認している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算をとるにあたり、重度化対応の指針を定め、説明・同意を得ている。当施設のできることを説明しながら随時家族の意向の確認を行い、併設の他事業所への移動も視野に入れて検討を行なうよう努めている。	重度化対応に関する指針に沿って、医療との連携体制などについて説明している。また、併設の特別養護老人ホームへの移動についての意向も確認している。利用者の状態に変化があった場合や重度化に向かっていると思われる場合は、再度家族とも話し合い、方針を共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルの研修を行い確認している。また、委員会発信の研修も定期的に行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回施設内の防災訓練を実施している。今年度は地域の防災訓練に参加したり、地域の方に防災セミナーを開く等はやっている。	地震、風水害、夜間の火災などを想定し、避難誘導、安否確認など年4回防災訓練を実施している。地域の防災訓練に参加したり、地域住民に向けて、新聞紙を使用したスリッパの作成や、食料品の備蓄方法等のセミナーなども開催している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際、周りの入居者に分からないようにさりげなく声かけをしたり、他入居者から本人の居室内が見えぬよう、居室ドアは基本閉めるよう配慮している。また、本人の性格等、その人らしさを損なわぬよう尊重した関りを意識している。	理念でもある「住まう人が笑顔で満足」に基づき、利用者を尊重した支援に努めており、毎月のカンファレンスや申し送り時にも確認している。トイレ誘導時の気遣いや居室ドアは閉めるなど、プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いや希望を聞くようにしており、こちらからも声掛けをしながら自己決定できるよう支援している。また、自分から希望を表出することが困難な入居者は、日々の関わりの中で表情、仕草から読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り個々の意思を尊重できるよう努め、散歩など、個々の希望に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院を利用する時など本人の好みに添うようにしている。また、洋服も本人の希望で選んでもらっている。毎日化粧をする方は習慣が無くならぬよう、化粧の促し、必要な化粧品の補充等、家族と協力して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に入居者の嗜好調査を行い、好みの把握に努めている。また、食事準備や片付けを入居者、職員とで協力して行っている。仲の良い入居者と一緒に食事が摂れる様、入居者の関係性にも配慮し、食卓席を決定している。	嗜好調査で聞き取ったことを反映させて、献立を作成している。利用者はお茶を配る、おかずを取りわけるなど、できることをおこなっている。行事食提供時は献立の説明をして、食事に関心をもってもらい、利用者同士の会話につながるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事・水分量をチェックし、必要に応じて、食事介助や水分摂取の促しを行っている。食事量・水分量の低下みられる方は、栄養士とも相談し、対応に繋げている。また、入居前からの習慣を尊重し、出来る限り本人の希望に合わせた促しをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック欄を作り、口腔ケアを徹底している。また、口腔衛生管理体制加算を取っており、訪問歯科医からの口腔衛生に関する指導・助言を日々の口腔ケアに活かしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズムシートに記入することでそれぞれの排泄パターンを把握し、変化が見られた場合もその都度話し合いをし対応している。	利用者個別の排泄リズムを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。失敗することが増えてきた場合は、トイレの場所が分からないのか、衣類の着脱に問題があるのかなどを話し合っ、解決につなげるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやヤクルトの使用など、下剤だけに頼らない便秘予防に努めている。また、水分摂取や運動、日光浴など、個々に合わせて促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向に沿って入りたい時に入浴できるよう努めているが、場合によっては職員の都合になってしまっている。その中でも入る時間は出来る限り本人の希望に合わせてくれるよう考慮している。	入浴は週2回以上できるようにしており、曜日や時間帯は希望に応じて対応している。利用者によっては、好きな入浴剤やシャンプーを使用するなど、入浴を楽しむことができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人の生活のリズムを考慮して、ベッドに臥床して休んでもらう等対応している。夜間の水分補給として、就寝時や夜間のトイレ等に起きて来られた際は、水分の促しをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報を共有して症状の変化の確認に努め、看護職員への報告を行なっている。また、必要によって主治医へ相談、服薬内容の見直しに繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る範囲やその時々気持ちに配慮し、家事等に参加できるよう支援している。また、テレビや音楽、一緒に歌ったり等楽しく過ごせるよう配慮している。また、個々に合わせ、新聞を取ったり、好きな雑誌を送ってもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は大きな外出支援は出来ていない。施設敷地内の散歩は天気の良い日に定期的に行っている。	近隣の商店への買い物や、公園などに散歩に出かけている。「外出表」を作成して自立度の高い利用者だけではなく、全員が平等に散歩や外出ができるように工夫している。家族の協力を得て、水族館、動物園などへの外出も実施している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年度は入居者と一緒に買い物に行けていないが、入居者の希望に合わせ、預り金で好きなものを購入している。本人の希望で自身でお金を管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で携帯電話を持参している方は、好きな時に電話をかけている。本人から家族への年賀状を書いてもらう促しや、以前から年賀状のやり取りをしていた方へ年賀状を書いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整や清潔保持に努めている。また、季節に合った野菜をウッドデッキで育て、収穫をし季節を感じてもらった。ユニット内で懐かしの音楽や入居者の好みの音楽、映画などのDVD観賞など、入居者と相談し流している。	清潔で安心して過ごせる空間を大切にしている。室温は適温に調整し、利用者が好む音楽などを流している。ウッドデッキでは野菜を育てたり、日光浴を楽しむなど、利用者にとって居心地のよい場所となっていると思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の意向に沿って、ユニット内の食卓やソファ、ユニット間のソファ、ウッドデッキ等で自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者がこれまで使用していた家具や写真、ぬいぐるみ、仏壇などを持ち込んでいただき、本人にとって居心地の良い、自分に合った居室となるよう工夫している。	慣れ親しんだ物を好きなように配置し、自分だけの時間が持てる場所となるよう配慮している。使用していた家具や寝具、写真などを持ち込み、落ち着いて過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置など安全に考慮している。「トイレ」の表示など目で分かる情報も取り入れながら生活しやすい環境作りにも努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと